

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	中條 雅美
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

現在、がん看護や看護倫理に関する研究を主な研究分野としている。具体的な研究テーマは、①がん患者に対する心理・社会的グループ療法におけるファシリテーターの介入形式や、グループ内におけるがん患者の療養態度の変化を明らかにすること、②一般病院における看護倫理やがん看護の問題点を明らかにし、がん看護教育のあり方を考察すること、である。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・ 中條雅美「サポートグループ」、139-142、宇佐美しおり・野末聖香編著『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』、日本看護協会出版会、2009年。
- ・ 中條雅美「健康危機状況のアセスメントと看護支援方法」「術後放射線療法後に化学療法を受けている乳がん患者」16-28、45-52、安酸史子・奥祥子編『患者が見える成人看護の実践』メディカ出版、2007年。

<論文>

- ・ 中條雅美(2007).乳がん患者が情報を取り入れつつ生活を再構築する過程を促進する構造.福岡県立看護学紀要 4(2), 45-53.

②その他最近の業績

- ・ 中條雅美、森崎直子、政時和美(2008).成人看護分野におけるコミュニケーションおよび倫理の取り組み、看護教育 49(2) 、126-132.
- ・ 中條雅美(2008).がん患者と向き合う.看護教育 49(4)、352-355.
- ・ 中條雅美(2008).グループ療法について知る、看護教育 49(5)、450-453.
- ・ 中條雅美(2008).がん患者に向き合う準備、看護教育 49(6)、546-549.
- ・ 中條雅美(2008).ファシリテーター訓練の実際、看護教育 49(7)、630-633.
- ・ 中條雅美(2008).グループ療法参加者の変化(1)、看護教育 49(9)、880-883.
- ・ 中條雅美(2008).グループ療法参加者の変化(2)、看護教育 49(10)、974-977.
- ・ 中條雅美(2008).看護師がファシリテーターを行うには、看護教育 49(11)、1064-1067.
- ・ 中條雅美(2008).ファシリテーターナース体験、看護教育 49(12)、1156-1159.
- ・ 中條雅美・橋本茂子、山名栄子(2008).乳がん患者の看護、クリニカルスタディ 29(10)、1042-1056.
- ・ 中條雅美(2009).ファシリテーターナースの困難場面への対応、看護教育 50(1)、84-87.
- ・ 中條雅美(2009).グループメンバーにおけるパートナーシップ、看護教育 50(2)、176-179.
- ・ 中條雅美(2009).グループ療法の実施準備、看護教育(3)、268-271.

<学会発表>

- ・ 仲野綾、小俣登志江、日高佳澄、養父知美、南記史子、中條雅美「摂食嚥下障害患者への関わり誤嚥性肺炎患者の実態に焦点をあてて」日本摂食・嚥下リハビリテーション学会(東京)、2008年12月。
- ・ 吉田素文、芦澤和人、阿蘇品スミ子、有馬直道、片野光男、門田淳一、河野公俊、下田和哉、田村和夫、中條雅美、馬場秀夫、林真一郎、前原喜彦、村山貞之、山名秀明、高柳涼一「がんプロフェッショナル養成プランについて 九州がんプロフェッショナル養成プランの課題と展望:医学教育学の視点から」日本癌治療学会、2008年10月。

<ワークショップ>

- ・ Rustomjee, Fujito, Chujo「Hope,Peace,and Harmony with Supportive Expressive Group psychotherapy in terminal Care Patients」, 8th Pacific Rim Regional Congress of International Association for Group Psychotherapy and Group Prosess/14th Conference of International Association of Dynamic Psychotherapy(松江), 2008年10月

③過去の主要業績

- ・ 中條雅美. 乳がん患者へのグループ療法の評価 QOL の側面から, 看護研究 39(3), 191-204, 2006.
- ・ 中條雅美. 「がんを知って歩む会広島」参加者の療養態度の変化, 福岡県立大学看護学部紀要 3(2), 15-22, 2006.
- ・ Chujo M, Mikami I, Takashima N, Saeki T, Ohsumi S, Aogi K, Okamura H. A feasibility study of psychosocial group intervention for breast cancer patients with first recurrence, Support Care Cancer13(7), 503-514,2005.

3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）、「がん患者に対するグループファシリテーター介入の評価尺度の開発」、350 万円、平成 21 年度～平成 23 年度、共同研究（研究代表者：中條雅美）。

5. 所属学会

日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本サイコオンコロジー学会、日本糖尿病看護・教育学会、日本哲学倫理学会、日本医事法学会、緩和ケアを考える会広島

6. 担当授業科目

成人看護学Ⅱ・2年・後期、成人看護学Ⅲ・2年・後期

8. 学外講義・講演

- 19年8月 「がんサバイバーシップとサポートの実際」（九州がんセンター）
- 19年9月 「がん患者の心理・社会的支援」（福岡県がん看護に関わる看護師の育成研修）
- 19年10月 「看護倫理」（中国労災病院）
- 20年1月 「グループ療法の実際」（心療内科フォーラム）
- 20年10月 「がん患者への心理・社会的サポートーグループ療法の実施ー」がん診療連携拠点病院講演会（佐世保市立総合病院）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション研究センター兼任研究員